

夏秋ギク型スプレーギクのオリジナル品種の育成経過報告

～4242個体から23系統を選抜～

1. はじめに

夏秋ギク型スプレーギクは高温で開花遅延しにくいことから、夏季の作型に導入されている。しかし、和歌山県に適した品種が少なく、優良品種の育成が求められているため、農業試験場では2012年より草姿、茎の強さ等の形質が優れた夏秋ギク型スプレーギクの育成に取り組み、現在までの経過を紹介する。

2. 育種目標

消灯後、12.5時間日長・30日間の短日処理で、6～7週間で開花し、花色、花型、草姿、茎・葉の強さ等の形質が総合的に優れるシングル咲きの夏秋ギク型スプレーギクを育成する。

3. 育成経過

1) 交雑

白色は‘ユキ’、‘フラム’など5品種11組み合わせ、ピンクは‘アリエス’、‘デュエル’など6品種13組み合わせ、黄色は‘オルカ’、‘レイラ’など3品種3組み合わせを交雑組み合わせとした。

2012年11月～12月に人工交雑し、2013年2月に採種した。

2) 一次選抜

2013年5月に播種し、得られた実生4242個体を6月下旬に硬質プラスチックハウス内に定植した。消灯後30日間はシェードにより12.5時間日長下で栽培した。8月中旬から下旬にかけて、草姿等の形質に優れた101個体を一次選抜した(表1)。

3) 二次選抜

一次選抜した個体を増殖し、2014年5月下旬に硬質プラスチックハウス内に直挿した。その後、現地慣行に準じて(消灯後の日長条件は上記と同様)栽培し、開花日および切り花品質を調査した。これらの結果と県スプレーマム研究会会員による評価から、優良な23系統を二次選抜した(表1)。

4. 今後の育成スケジュール

2015年度は二次選抜で選抜した23系統について三次選抜を行い、優良系統については2016年度に現地適応性試験を実施し、品種登録出願を目指す。また、農業試験場育成系統を交配親に用いて、継続してオリジナル品種の育成に取り組む予定である。

(栽培部 前川真穂)

表1 一次選抜の定植数と選抜数および二次選抜数

花色	定植数 (個体)	一次選抜 (個体)	二次選抜 (系統)
白色	2128	57	9
桃色	1596	31	10
黄色	518	13	7
合計	4242	101	23

注)開花日、花色、花型、草姿、茎・葉の強さ等の形質により選抜した。



系統選抜会の実施